

1 研究主題

**バドミントンを基にした攻守一体型ゲームの充実**  
 ～児童も教師も伸びを実感できる下位教材や場の設定，工夫されたルールの開発を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領及び、一昨年度の反省から

昨年度から全面実施となった新学習指導要領では、「ネット型」の扱いとして「バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲーム」が例示として示されている。身に付けることができるようにする技能についても、「自陣から相手コートに向かって相手が捕りにくいボールを返球する手や用具などを使った簡易化されたゲームをすること。」に変わった。第3部会では、一昨年度の提案でもバドミントンを基にした授業の実践例を提案した。当時の提案の課題として、左右の打ち分ける技能が習得しきれず、ゲームでの活用が難しかったことが挙げられた。

(2) 教職員の実態から

第3部会では、一昨年度の提案から、ネット型の学習としてバドミントンを授業に取り入れている学校が増えている。本部会の職員356名を対象に、バドミントンに関する質問調査を行った。「バドミントンをネット型の授業で取り組んでみたいか」という質問に対し、「取り組んでみたい」「どちらかといえば取り組んでみたい」が約75%となった。(図1) 逆の回答をした約25%の理由として、「指導方法(下位教材)がわからない(59.8%)」や「場の設定に不安がある(41.6%)」が高く、次いで「他のネット型の方が指導しやすい(32.6%)」や「場が十分に確保できない(31.2%)」などが挙げられている。(図2)

指導経験のある職員の「指導してよかったところ」についての回答では、「児童の意欲が高まった(81.0%)」が最も高く、「運動力が確保できた(54.8%)」や「技能差がなく始めやすかった(33.3%)」という回答も挙げており、バドミントンに教材としての魅力があることがうかがえる。(図3) また、「児童に十分指導できなかったことは何か」という質問には、「狙ったところに打つ(54.8%)」「どこに打ったらよいか(47.6%)」「失点の防ぎ方(40.5%)」という回答が多く見られた。(図4) また、どうしたらそういった力が伸びると思うかという質問に対しては、「下位教材の充実(83.3%)」が最も高く、「場の工夫(31.0%)」と続いた。(図5)

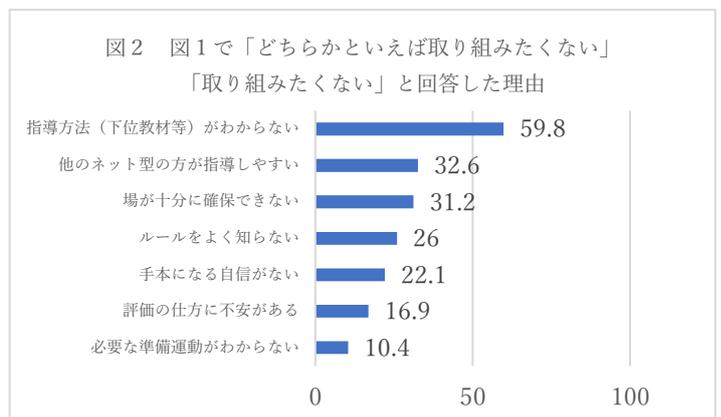
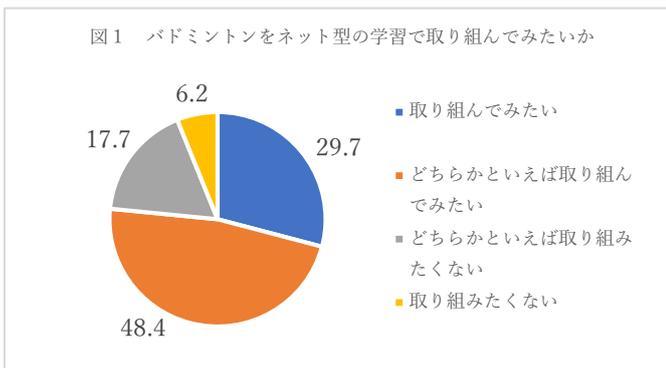


図3 指導してよかったところは何か

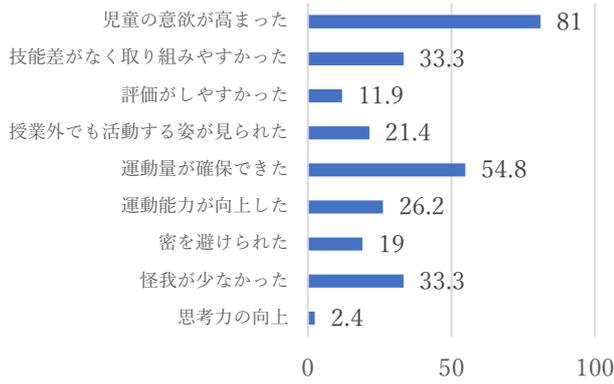


図4 児童に十分に指導できなかったことは何か

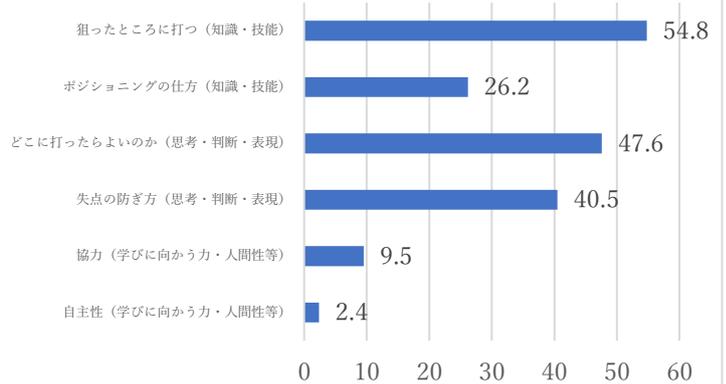


図5 図4で回答したことを伸ばすにはどうしたらよいと思うか



### (3) 児童の実態から

3部会5年生の児童(1503名)を対象に、バドミントンに関する質問調査を行った。「やってみたいボール運動」では、バドミントンが54.3%と一番高い結果となった。(図6)「バドミントンをやったことがありますか」という質問に対しては、「はい」が84.6%となり、その多くが「遊び(76.5%)」の中で経験したことがあるということがわかった。(図7)「授業でバドミントンをやってみたいですか」という質問に対して、「はい」が77.2%となった。「バドミントンでおもしろそうなことは何ですか」という質問では、「ラリーを続けること(56.0%)」が一番高い結果となった。(図8)また、「バドミントンで難しそうなことは何ですか」という質問に対して、「ねらったところに打つこと(59.3%)」や「ラリーを続けること(48.6%)」(図9)などが挙がり、ラケット操作による技能面の回答が多く見られた。

図6 やってみたいボール運動

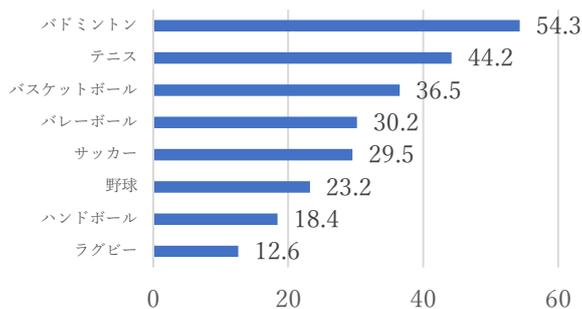
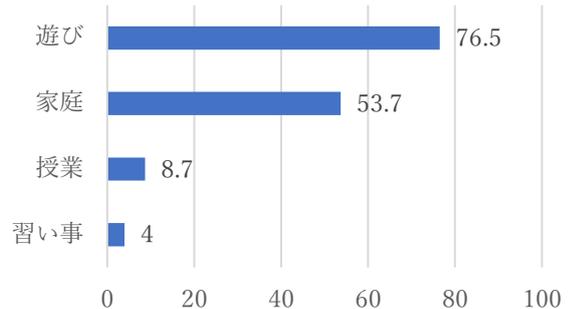
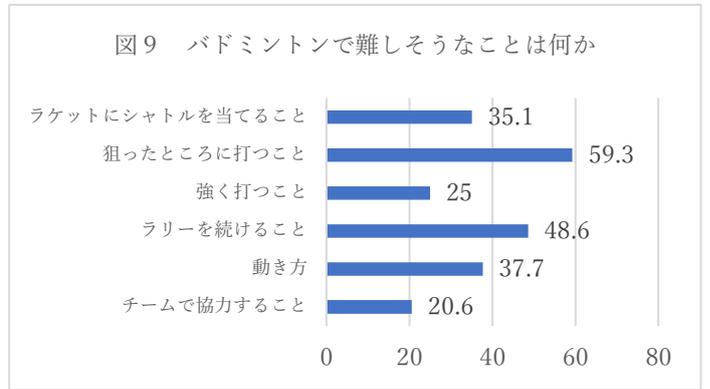
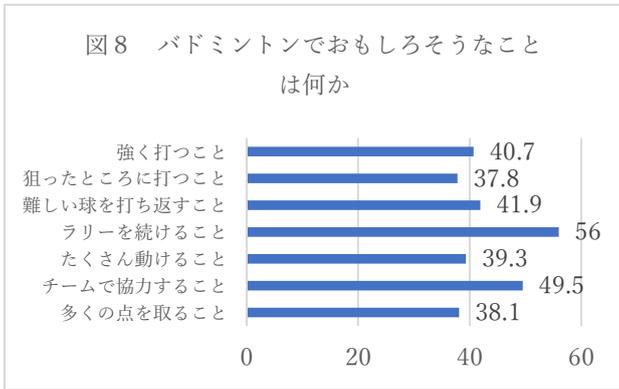


図7 バドミントンをどこで経験したか





以上のことから、第3部会では技能のポイントを明確にし、下位教材や場の設定、工夫されたルールを開発することで、児童の能力向上や教師の指導の充実に繋がると考え、本主題を設定した。

### 3 研究仮説

#### 仮説1

場面に応じた打ち方を明確にし、ラケット操作に特化した下位教材を開発すれば、児童の知識及び技能が高まるだろう。

○場面や状況に応じたラケット操作を明確化し、ワークシートによる課題把握や課題に応じた下位教材に取り組ませることで、知識及び技能の向上を図る。

#### 仮説2

児童の実態や発達段階に応じて、場やルールを工夫すれば、教師も楽しさや児童の伸びを感じて授業を展開することができるだろう。

○指導のポイントを明確にした場やルールを開発することで、教師が安心して授業に取り組めるようになる。

### 4 研究計画

時期	研究内容
【令和3年度】	
6月	○第1回学習会 ・研究の方向性について    ・研究主題の検討    ・アンケート内容の検討
7月	○印西市・白井市小学校5年生児童を対象にアンケート実施 ○印西市・白井市教職員対象にアンケートを実施 ○アンケート結果の考察、分析    ○研究主題設定の理由について    ○研究仮説の検討
8月	○資料作成○紙上提案
9月	○授業内容検討
10月～3月	○授業研修（白井市立南山小学校） ・授業実践    ・実践の反省    ・授業内容検討
【令和4年度】	
4月～5月	○授業研修（白井市立大山口小学校） ・授業実践    ・実践の反省    ・授業内容検討
6月	○授業実践の考察    ○資料作成
7月～8月	○研究のまとめ    ○提案資料作成    ○印旛地区教育研究会 本提案

